

元気が
生まれる！

空き家 活用 術家

全国で増え続けている空き家。景観が悪くなるだけでなく、倒壊のおそれがあったり、治安の悪化につながったり……。ところが、そんな地域の「悩みの種」をうまく使って、人々が集まる地域の拠点づくりを活用している取り組みがあるんです。

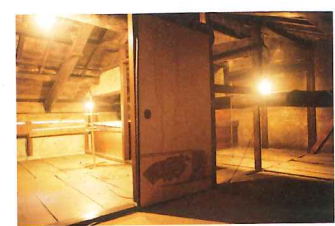


文●川島路人(P165～167)、木下正美(P168～170)、植田美智代(P171～173)
写真●阪本博文(P163、168～170)、繁延あづさ(P164～167)、後藤さくら(P171～173)
写真提供●旧土井良文家住宅管理運営会議(P167)、夢ひたちファームなか里(P171～173)

集落の拠点+認知症予防

高齢者の心を つなぎ続ける

旧土井良文家住宅管理運営会議
福岡県糸島市(JA糸島管内)



右上、右下/住民の集い場として役立つ旧土井良家。裏手には引津湾が広がる。左/高齢者にも使いやすいようリフォームした玄関

糸 島半島の西部、引津湾に面して広がる岐志浜行政区。漁師町の古い町並みが今に残り、カキをはじめとした新鮮な魚介類を味わおうと、漁港に並ぶ「カキ小屋」に多くの観光客が詰めかけるエリアです。志摩岐志集落の海沿いに立つ旧土井良文家住宅(以下、旧土井良家)は、江戸時代末期に建てられたとみられる古い建物。その主人(丈文さん)が亡くなって以降、半年ほど空き家になっていました。

集落にある海徳寺では、以前から地域住民が集まれる居場所づくりに取り組んでいました。しかし、海徳寺は集落から少し離れた所であり、足の不自由なお年寄りが通うときは送迎が必要でした。



空き家だった旧土井良家は、地域の人々が集まる集落の拠点に生まれ変わった

旧土井良家での イベントあれこれ



七夕まつり

おこもりカフェと地域住民が合同で、旧暦の七夕の時期である8月の第1土曜日に毎年実施している。そうめん流しのほか、竹細工の水鉄砲作りや七夕の短冊作りを地域住民が楽しむ。子どもから高齢者まで、幅広い世代が交流できる場だ。



お祇園さま

5月15日におこなわれる地域の神社の祭り「お祇園さま」に合わせて、地域住民が開催。かつて祭りの日に作っていた鉢盛り料理を再現し、旧土井良家で食事会を開いた。通りかかった人も飛び入りで参加するなど、大盛況だった。



着物リメイク講座

着物リメイクの講師を招いて、月1回程度開催している。参加者は着なくなった着物を自宅から持ち込み、その生地をほとんど、洋服や小物類などにリメイクしていく。和気あいあいと手芸を楽しめることから、地域の女性たちに好評だ。



歌いながらする上半身の体操。参加者たちの笑顔が弾ける

「ことわざかるた」。みなさん、驚くほどのスピードでかるたを取っていきます。歓声が湧き起こり、だれもが笑顔に。体と頭のトレーニングをした後は、甘酒や桜餅を全員で楽しみました。

旧土井良家の隣に住む土井良時枝さん(76)は、次のように語ります。「運動会など地域の集まりがなくなっていたので、交流の場ができてよかった。おかげでみんな、元気いっ

やすいですね」

と、志摩会理事長の黒澤明さん(57)は話します。この日の催しは、『うれしいひなまつり』を歌いながらの体操や、手作りの札を使っている「ことわざかるた」。みなさん、驚くほどのスピードでかるたを取っていきます。歓声が湧き起こり、だれもが笑顔に。体と頭のトレーニングをした後は、甘酒や桜餅を全員で楽しみました。

旧土井良家の隣に住む土井良時枝さん(76)は、次のように語ります。「運動会など地域の集まりがなくなっていたので、交流の場ができてよかった。おかげでみんな、元気いっ

玄関に設けた手すりは、土間の上がり下りに役立っている



大きな文字なので見やすい「ことわざかるた」。「脳トレ」にうってつけのゲームで、参加者の表情は真剣そのもの

旧土井良家を活用して、より便利な居場所づくりができないか——と考えた海徳寺が、平成二十七年初頭に、空き家活用に詳しい地域づくりコンサルタントの本田正明さん(41)に相談したことが、空き家活用プロジェクトの始まりでした。

ちょうど同じ時期、地元の社会福祉法人志摩会は、糸島市が推進する「認知症予防カフェ」の実施を検討していました。本田さんが仲介しながら、所有者や地域の人たちと話し合い、旧土井良家の管理と運営を分けて活用することにしました。

そこで、土井良家の親族、海徳寺、本田さんたちが「旧土井良文家住宅管理運営会議」を設立。文文さんの妻から建物を借りて、維持・管理を始めました。志摩会はこれを借り受けて、認知症予防カフェ「おこもりカフェ志浜」として運営しています。県や市の助成金で建物の補修

やトイレの改修をしたほか、玄関の土間の整備と手すりの設置などのバリアフリー化をおこないました。

認知症の予防と進行の防止を目的としたおこもりカフェは、二十七年十一月にスタート。第一・第三土曜日の午後三時から三時開催しています。

三月三日に開催されたおこもりカフェの会場には、華やかなひな壇が飾られていました。この日の参加者は十五人で、全員女性。昨年の参加者は毎回十二人ほどでしたが、今年に入って徐々に増えているそうです。「参加者のほとんどが志摩岐志集落に住む女性。昔ながらのコミュニティが残っている地域ですから、みなさん顔なじみで、カフェも運営し

ひな祭りにちなんだ振る舞われた甘酒や桜餅。玄関にはユーモラスな「長寿の心得」が掲げられていた



旧土井良家の活用で、より便利

な居場所づくりができないか——と考えた海徳寺が、平成二十七年初頭に、空き家活用に詳しい地域づくりコンサルタントの本田正明さん(41)に相談したことが、空き家活用プロジェクトの始まりでした。

ちょうど同じ時期、地元の社会福祉法人志摩会は、糸島市が推進する「認知症予防カフェ」の実施を検討していました。本田さんが仲介しながら、所有者や地域の人たちと話し合い、旧土井良家の管理と運営を分けて活用することにしました。

そこで、土井良家の親族、海徳寺、本田さんたちが「旧土井良文家住宅管理運営会議」を設立。文文さんの妻から建物を借りて、維持・管理を始めました。志摩会はこれを借り受けて、認知症予防カフェ「おこもりカフェ志浜」として運営しています。県や市の助成金で建物の補修

やトイレの改修をしたほか、玄関の土間の整備と手すりの設置などのバリアフリー化をおこないました。

認知症の予防と進行の防止を目的としたおこもりカフェは、二十七年十一月にスタート。第一・第三土曜日の午後三時から三時開催しています。

三月三日に開催されたおこもりカフェの会場には、華やかなひな壇が飾られていました。この日の参加者は十五人で、全員女性。昨年の参加者は毎回十二人ほどでしたが、今年に入って徐々に増えているそうです。「参加者のほとんどが志摩岐志集落に住む女性。昔ながらのコミュニティが残っている地域ですから、みなさん顔なじみで、カフェも運営し

